

ゼロ次予防

— 認知症の少ない社会をつくる

千葉大学予防医学センター教授
近藤克則

- * 人生100年時代の現実味が出発点
- * 日本の実状をビッグデータで検証
- * ゼロ次予防の考え方について
- * 日本にも認知症になりにくいまちがある
- * 社会的孤立が認知症発症率を高める
- * 社会参加の効果を考える
- * 通いの場を増やした実例と効果
- * 介護給付費も低下傾向に
- * 始まった認知症になりにくいまちづくり
- * 格差が生む健康を含めた様々な問題



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は千葉大学の近藤先生においでいただき
ました。1958年のお生まれで、千葉大学を
ご卒業後、民間の医療機関にお勤めになった後、
ケント大学で研究員をされ、その後、日本に戻
どられて、今、千葉大学で教授をされておられ
ます。

ご専門は、後でご本人からしていただけるか
と思いますが、英国で医療、特に健康格差の問
題の研究を続けてこられて、今年「健康格差縮
小を目指した社会疫学研究」で日本医師会医学
賞を受賞されました。

近藤 克則
コロナの問題で、今、たいへん社会が流動的
になっておりますが、ご覧になった方もおられ
るかもしれませんが、毎日新聞等で、コロナを

ゼロリスクにすることによって、かえって他の
社会的なリスク、様々なリスクが高まるという
指摘をされました。そういった関係の意見があ
ちらこちらで散見されるようになりましたが、
そういった観点から、われわれの今後の生活、
特に長生きする場合のリスクについて、今日は
お話しいただけるとと思います。

それでは、近藤先生、よろしく願いました
ます。

人生100年時代の現実味が出発点

近藤 ただいまご紹介いただきました近藤で
す。

今日のテーマである認知症が少ない社会をつ
くろうとすると、医学的な知見にとどまらず、